かりがね
karigane

特別号
No 400

春

[季刊] かりがね
発行人／社会福祉法人かりがね福祉会
昭和 54 年 9 月 26 日　第三種郵便物認可
3、6、9、12 月 1 日発行
2023 年 3 月 1 日発行

Contents

表紙　風の工房
裏表紙　お! わ! いい!　Karigane collection
ずっと想いを届け続けていきたい（創刊 400号に寄せて）…… P1
機関誌「かりがね」発刊 400号にあたって…… P2
やさしい風が吹く時　風の工房 …… P3
ご利用者様の持つ力を信じ、ご利用者様の想いを最大限尊重します　つつじ …… P4
400号　皆様に感謝いたします !! …… P5.P6
キラッと光る　ご家族の手記 …… P7
地域の方々　ほっとたいむ　クラウドファンディング　感謝録…… P8
スタッフリレー通信 …… P9
かりがね福祉論 …… P10

ずっと想いを届け続けていきたい

（創刊 400号に寄せて）

社会福祉法人かりがね福祉会
理事長　小林　彰

燎原の火

機関誌「かりがね」創刊号は、１９７６年（昭和５１年）１２月に「燎原の火」と題して発行されました。当時設立会員の一人、京都府の片山正治様が振込通知書に記された「（本会の活動が）燎原の火のように天を焦がして拡がっていくのが見える思いです」から、かりがね福祉会創設の中心人物、岩見太市氏は創刊号の最初にこの言葉を掲げました。まだ何も具体的な形になっていなかった時期に、この言葉を選んだのは岩見氏の設立運動が燎原の火のように拡がってほしいという切なる願いがあったからだ、と思います。

冒頭には次の文章も添えられています。

≪ふりかえって、私は富を求めようともしなかったし、権力を求めようともしなかった。私が求めたものは、ただ至上のたまものたる友であった。この賜物は私に残りなくあたえられた。そして、そこから私は人と人との結びつきを感じた。これこそ人生に、いかなる悲しみの力もくずすことのできない幸福をあたえるものである≫（ラスキ）

機関誌かりがねは、創刊時より人と人を結びつける役割を果たしてきました。設立運動はしばらくして予言されたかのように燎原の火となり、人と人の結びつきを強め、多くの設立会員の協力によりかりがね学園（現ライフステージかりがね）が１９７９年（昭和５４年）に開園しました。その後、火は灯され続けて確実に人と人との結びつきを拡げ、今日のかりがね福祉会ができあがってきました。これからも機関誌かりがねは、人と人との結びつける役割を担い続いていくだろう、と思っています。

理解の深まり

機関誌かりがねは、当初設立会員や運営会員のための情報提供誌でしたが、その後多くの方々の目に留まるようになってきました。かりがね学園の開所後しばらくして、真田町では役場や自治会、自治会長（区長）のご協力をいただき、機関誌かりがねの全戸配布がお願いでき今日まで続いています。４０数年に及ぶ全戸配布の効果で真田町ではかりがね福祉会のことはほとんどの方に周知されることになりました。

ご利用者様についても、特性の理解が進んでいます。「かりがねの人」という言い方から、個人名で名前を呼んでいただける人も増えて、個別にいろいろなお付き合いをされているご利用者様も多くなっています。機関誌かりがねにより、かりがね福祉会や利用されている方への理解が深まっています。

取り組みへの支援をいただく

現在はご利用者様からいただく利用料を使って、法人で必要とされる土地や建物などを手に入れることが認められていますが、以前は寄付金や法人独自で得た収入でその費用をまかなわなければなりませんでした。かりがね福祉会では、「ひなやまの家」や「風の工房」を設置する際は、土地購入や建物建設に運営会員の方からいただく運営会費が当てられました。その際も機関誌かりがねは大いに役割を果たしました。１９８５年、１９８７年と２度増刊号を発行して、かりがね福祉会の構想の趣旨や具体的な計画を知っていただいたり、運営会費の使途を丁寧に説明してきました。

これからも想いを伝えていきます

機関誌かりがねは、運営会員の方々、地域の方々、関係機関、そしてご利用者様やそのご家族にこれからもかりがね福祉会の今をお伝えし、想いを伝え続けていきます。新型コロナウィルスの感染拡大でなかなか交流や見学、報告の機会が持てない状況が続いています。非常に残念なことですが、機関誌かりがねの紙面を通じて様々な情報をお伝えしていきます。

今後ともご愛読をどうか宜しくお願いいたします。

機関誌「かりがね」発刊400号にあたって

一般社団法人しなの福祉教育総研
理事長 樋口 俊文

かりがね学園（現ライフステージかりがね）が1979（昭和54）年に開設し、早45年になろうとしています。また、機関誌「かりがね」の創刊号が1976（昭和51）年12月に発刊されてから、今回で４００号を迎えることになりました。４００号の発刊にあたりましては、機関誌「かりがね」に携わっていただきました、多くの皆様の熱意あるご支援のおかげであると感謝の念に堪えません。

機関誌「かりがね」創刊号は、かりがね福祉会創設者であり、初代かりがね学園長の岩見太市氏が、小さなアパートの一室から、今後目指すべき新しい障がい者施設づくりに向けたメッセージを、初めて社会に向けて発信した内容でありました。この機関誌を通して、かりがね学園設立運動が始まり、全国に大きなうねりとして広がっていきました。約3年の間に約6400名にのぼる設立会員の皆様のご支援があり、かりがね学園が誕生しました。設立会員制度のような方法により開設された障がい者施設は、全国でも初めての取組であったと記憶しています。４００号という大きな節目にあたり、あらためて創刊号の「かりがね」を読み返してみると、その中には、「われわれが目指す施設」と「機関誌かりがね発刊の目的」が鮮明に描かれていました。現在、かりがねに関わる者としてもう一度振り返りを行い、基本姿勢を確認するためにも、その内容について抜粋して紹介をしたいと思います。

先ず「われわれの目指す施設」の中に、当時の法制度として使われていた「精神薄弱者援護施設」についての課題解説がされ、目指すべき施設の方向性が３つ記載されていました。一つ目としては「施設の社会化」であり、施設が社会の一員として認められるような運営をすること。二つ目は「施設の家庭化」であり、入所者にとって一般家庭と同様な生活の場としていくこと。三つ目は、「施設の近代化」であり、広く社会の人たちが運営に参加し、新しい福祉施設の姿を実践すること。と記載され、より具体的な取組みの方法が明示されていました。この三つの基本理念は、提言されてから半世紀となりますが、現在の社会福祉施設においても目標としていかなければならない重要な内容となっています。

次に、機関誌発行の目的と使命については、今日でも盛んに言われている「社会に開かれ、地域と共にある施設づくり」のためには、① 施設の場所が地域社会から遊離しないこと。② 施設運営の中で地域との交流を重ね、繋がりを強めていくこと。③ 施設経営を一部の人のみで行わないで、広く社会の人たちを巻き込んでいくこと。の３つが特に重要であり、機関誌はその実践を広く社会に伝えるための手段であると述べています。また、機関誌の在り方として『機関誌は施設と外部の人たちの真の交流の場にしたいと思う。そして、施設の内情をありのまま紹介し、多くの人々の批判をいただき、明日への礎としたいと思う。利用者・職員の声と共に、会員となっていただいた方や関係者の皆さんの随筆、詩、文芸、論文、意見交換なども併せて掲載して、施設という小さな世界から脱却し、入所者、職員、外部の人たちが一体化して相互研鑽の場及び人間形成の一助となるような工夫を行い、新たな人との出会いと繋がりとなれば無上の喜びである。〈人を得る、人間にとってそれに勝る財産はあるまい〉。』と記載されていました。

今日の社会福祉施設においても、ご利用者様への人権侵害・虐待問題等が毎日のように報道され、閉鎖性や、透明性に欠ける組織であることが指摘されています。私達かりがねに関わるものとして、開設当初の理念や運営方針をもう一度再認識し、これからの社会福祉法人運営や経営に携わっていく必要があると考えています。「かりがねへの道」はまだまだ道半ばであり、益々険しい道程であることを看取していかなければなりません。

やさしい風が吹く時

風の工房

在宅のご利用者様Ｓさんは、体調不良等のためお休みされる日も多いのですが、風の工房を利用されることをとても楽しみにしています。特にドライブで景色を眺めるのがお好きです。「今日は○○さんとドライブして楽しかったです。」と感想をホワイトボードに綺麗な字で書いて下さいます。絵画活動にも取り組み、長い年数を掛けてパスタの下絵を描き、現在は色鉛筆の工程に入っています。Ｓさんは聴覚の過敏もあり、主に筆談でのコミュニケーションをされています。活動スペースはできるだけ音や声の刺激が少なく、食事、休憩もできる空間を設けています。Ｓさんは時々声を出し、感情を表出される時もありますが、スタッフは落ち着いていただける環境を作り、見守ることを大切にしています。

風の工房では、それぞれの方のできること、障がい特性に対応して、活動スペースの環境作りを整えることを大切にしています。常にスタッフ間で情報共有、意見交換し、臨機応変に改善を図っています。歩行が不安定な方のために、事業所内に手すりを設置したり、自閉スペクトラムをお持ちの方へ新たな活動内容を考案しています。これからも模索、実践を積み重ね、ご利用者様もスタッフも、お互いにやさしい風が吹く時を創造していきたい、と願っています。（伴野慶）

かりがね福祉会に入職し、風の工房でお世話になり３年が経ちました。風の工房は、毎日が明るくプラスの言葉で溢れていると感じます。ご利用者様は素直で真っすぐで、スタッフの方々もとても優しく、取り柄のない私でも評価してもらえる日々です。スタッフの方々の人間力も素晴らしく、ご利用者様の特性や支援のことで相談をすると、皆で考えてより良い方向へ導いてくれます。また、子どものことでお休みをいただく際には「大丈夫、大変な時はお互い様」と言ってもらえます。

少しずつではありますが、ご利用者様との信頼関係もできてきて嬉しく思います。しかし、言葉で伝えることが難しい方の気持ちを察することが、まだうまくできないと感じることもあります。ひとりひとりの特性を理解し、表現や動きなどで発信してくださる方の気持ちに寄り添い、周りのスタッフの力をお借りし、観察力や知識の幅を増やしていくことが目標です。毎日とても楽しく仕事をさせていただいており、助け合い、元気をもらえる職場で仕事をさせていただける“ご縁”に感謝しています。これからもご利用者様の笑顔が絶えず、安心できる場所となるよう、微力ではありますがお手伝いさせていただきたいと思います。（矢島美由貴）

ご利用者様の持つ力を信じ、ご利用者様の想いを最大限尊重します

相談支援事業所　つつじ

つつじって、どんなことをやっているの？

福祉サービスご利用にあたり、必要な計画書や報告書を作成しています。また会議を行い、ご本人やご家族のご希望やお困り事等をお聴きしたり、ご自宅や事業所、学校等へ訪問しています。また地域で自立して生活を送るためのお手伝いをしています。

地域で自立して生活を送るためのお手伝いって何？

ご高齢の方等と暮らしている世帯や一人暮らしの方が生活をする中で困っていることについてアドバイス等を行い、安心して生活を送ることができるようにお手伝いしています。一部ですが、下記のようなお手伝いをしています。（「地域定着支援」と言います。）

買物に行きたいけど、どれを買ったらいいのか教えてほしいな…

急に具合が悪くなっちゃった…どうしたらいいのかしら？

ゴミの分別って難しいな…

体調等に不安をお持ちの方のご様子を伺いに行きます

私たちつつじは、ご利用者様お一人お一人が地域で安心して生活を送って頂くため、日々お手伝いをさせて頂いています。

ご心配な事やお困り事等がありましたら、お気軽につつじへご相談ください。（川岸由佳）

400号 皆様に感謝いたします!!

字：徳増さやか さん

キラッと光る ご家族の手記②

宮嶋悟朗さんお父様　正範さん

宮嶋悟朗さん

開所してまもないアトリエ Fuu にお世話になってから、それまで月数回あったてんかん発作が半年余り止み、ゆったりと時間が流れる Fuu の雰囲気が息子（現在 48 歳）の体調にプラスに働いたのだな、と感謝したことは忘れられないことでした。それから長い歳月が流れ、親は高齢になり、その間発作の頻発、入院など繰り返し、抗てんかん薬の微調整に腐心している日々です。

息子は 330 余ある国指定難病のひとつを疾患として持ち、ほぼ全介護の状態です。先日かかりつけ医の先生から「これから親御さんはますますきつくなりますが、がんばってください」と言われ、なぜかしんみりしていました。「がんばらない」という言葉がありますが、我が家にとっては理解し難い表現です。がんばるしかないからです。一方で息子の存在のおかげで得たものは、計り知れないものがあります。「人」の力です。全身で受け止めてくれる歯科の先生（御母堂の危篤の時も帰省せず手術をしていただいた）、救急搬送された息子を無条件に受け入れてくれる脳神経外科の先生、北陸の旅を支えてくれた Fuu スタッフの方々など数え上げればきりがありません。

「キラッと光」らない家族の手記ですが、日中 Fuu でお世話になっている時は、親にとって束の間の休息の時間です。それはとてつもなくありがたく、それ以外は怒涛の如く時間が過ぎます。そして一番幸せに思う時は無事一日が終わり、眠りにつくときです。一日やり終えたというささやかな充実感と今日も親子で共に暮らせたという安堵感です。「今日はこれができるようになった」などということはありませんが、時々おかしなことをして笑いの種を提供してくれるのも息子の特技かな、としみじみ思います。それにしても一年中靴下を履くことを頑なに拒否するのでなんとかならないものかと、親は無い知恵を絞っています。どなたか良い方法があったら教えて下さい。

若林春樹さんお母様　智子さん

若林春樹さん

手記のお話をいただいて、改めて小さい頃のことを思い出しています。29 年前、生まれた時はダウン症と言われましたが、心臓病などもあり、とても心配して、ちゃんと育つのかと思いました。何年も県立こども病院や、長野病院に通い大変でしたが、その時は大変だとは思わず、その時のできることをやるのが精一杯でした。今では病気があったとは思えぬほど元気です。生まれてから病院に通っている中で保健師さんを紹介してもらい、すぐに家に訪問していただき、親身になって話を聞いてくれました。ダウン症は早期療育がいいと言われ、１才３ヶ月からいずみ園に通所。年少からは、さなだ保育園、卒園後は本原小学校に入学。在籍は支援学級でしたが、原級との交流はしていました。卒業後は上田養護学校へ進み卒業後、かりがね福祉会の OIDEYO ハウスにお世話になっています。

最初は OIDEYO ハウス本体を利用していましたが、大勢の中より少人数の方が良いのではと思い、今は分場の希咲館を利用しています。ダウン症は穏やかと言いますが、他の面も持っています。自分の世界に入り見えない誰かと戦ってしまったり、物に当たってしまったり、初めて見る方は、どうしたんだろうと思う方もいたと思います。今は自分でコントロール、１人でクールダウンして切り替えることもできるようになってきています。希咲館のスタッフの方も様子がおかしいと近くを散歩したり、リフレッシュにドライブに連れて行ったりと１対１で対応してくれるので助かっています。音楽が大好きで、小さい頃から沢山歌を聞いていました。キーボードにドレミのシールを貼ってあげると、少しずつ弾いてみるようになり、今はレパートリーもたくさん。休みの日はよく部屋で楽しんでいます。小さい頃、心配で手を離すことができなかった私ですが、今思うといろいろな体験をさせればよかったかなと思うこともあります。春樹自身、何かやってみたいと思う気持ちがいっぱいあるようです。時々父親や私が何かやっているとジーっと見ていて、やりたい様子の時もあります。そんな時少しだけ手を貸してやらせてみることがあります。例えば料理、切ってみたい、炒めてみたい、見ているのは怖いけど少しずつやらせてみたりしています。

この頃、保育園や小学校の頃のビデオを見ることがあり、懐かしく見ました。見ていると子どもたちが遠からず、近からず見ていてくれる姿がありました。当時を振り返り、少しでも同じ年代の子供たちの中で過ごせてよかったと思いました。あの頃の笑顔が今もこの先も続いていけるといいなあと思います。上田市真田町にかりがね福祉会があって、いつでも相談に乗ってくれる人がいる安心感があって、今まで来れたと思っています。これからもいろいろあると思いますが、よろしくお願いします。

地域の方々 ⑥

山家神社 **押森 慎**さん

山家神社は、上田市真田町長　真田自治会に鎮座しています。西暦718年(奈良時代)の文献に神社の最も古い記載があり、1300年以上の歴史があります。かつては真田家等、歴代領主の保護、信仰もありました。

押森家は平安時代から宮司を務める家系です。押森慎さんは、国学院大学で神職としての学業を修め、卒業後諏訪大社に8年奉織し、2014年に山家神社54代宮司を継承されました。押森さんは「郷生（きょうせい）」という言葉を用いて、地域の方々と神社が共に生きることを意識されています。また「維時（いじ）」という言葉を用いて、地域と神社の歴史・時間・空間をつなぎ、守り育てていく理念を持たれています。これまでにも御田植祭等、形式化し、途絶えていた神事を古来のかたちに復活させたり、明治時代に秋の風物詩であった「真田の仕掛け花火」をクラウドファンディングで資金を集め、100数十年ぶりに打ち上げました。依頼に応じて神前婚礼や厄除祈祷も行っています。押森さんは「自らが率先して行動し、神事を通じて地域の方々が喜びあう神社にしたいです。」と信念を語って下さいました。

かりがね福祉会のご利用者様も日中活動の際、山家神社を参拝し、境内や周辺を歩行されています。TEL.0268-72-5700　（取材・伴野慶）

ほっとたいむ ③

森千恵美さん **田中圭**さん **佐藤偉**さん（アトリエ Fuu）

アトリエFuuでは、毎週木曜日に地域ボランティアとして上田市真田町内のゴミ拾いをしています。昨年10月から活動をスタートし、森さんと田中さんペアでゴミを見つけて、毎回袋いっぱいになるほど集中して取り組まれています。

先日は佐藤さんも仲間に加わり、協力しながら取り組まれている姿が微笑ましいです。これから少しずつ仲間を増やし、楽しみながら真田の街を綺麗にできたらいいですね。（小松）

クラウドファンディング「CF信州」で支援募集中！！！

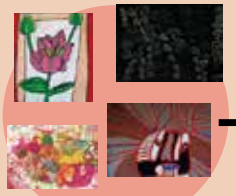
募集期間　２０２３年１月３１日（火）～４月２０日（木）　目標金額　７０万円

個性溢れる画を布生地にしたい！

風の工房 × 洋裁屋 atorie

長野県小諸市で洋裁屋 atorie を主催している小松さんの「福祉施設で描かれるカラフルで魅力的な画が洋服になったら『めちゃくちゃカワイイ！』」という想いと、「ご利用者様の絵を多くの人に見てもらいたい」という風の工房の想いから生まれた企画に、ご支援をお願い致します！

ご利用者様の画が



オリジナルの布生地に

ご支援いただけると…

返礼品として布生地を使ったリバーシブルバックや風呂敷等がもらえます。
布生地の売上の一部がご利用者様の収入や活動資金になります。
個性的な布生地でオリジナルの布雑貨を作ることができます。

支援する方法は２つあります！

①スマホから支援する

① WEB サイトにアクセスする
② 支援するボタンをクリックする
③ 寄付額とリターンを選ぶ
④ 会員登録をする
会員登録以降は画面の指示に従ってお進み下さい

②銀行振込で支援する

① 下記銀行へお振込みをお願いします。
＊大変恐縮ですが手数料がかかる場合は各自ご負担をお願いしております。
八十二銀行　小諸支店　店番号　351
口座番号　1170748
口座名義　洋裁屋 atorie

② 下記お問い合わせ先まで「オリジナル生地制作への支援」とお伝え下さい。

【お問い合わせ先】

洋裁屋 atorie
Mail：gymhpe312225@gmail.com
住所：長野県小諸市荒町 1-2-3

Mail：QR コード

感謝録

皆様のご支援・ご協力に感謝申し上げます。
※敬称略させていただきます　2022年10月1日−2022年12月31日

寄贈物品

いちごの家　高寺陽子　坂口哲雄　半田徳弥　池田秀　東京特殊電線　小竹昭雄
青木和夫　安藤善晴　オートパル信州うえだ　堀内淳　釜成屋　東信ガス
サイサン　矢島慎一郎　シュンエイ電設
牛乳パック　アルミ缶　かぼちゃ　車いすマスク　靴下用カイロ　りんご
みかん　しょう油　うどん・きしめん　お菓子　以上

寄付金

有限会社加藤製作所　石原産業株式会社社員一同　堀内艶子
日精エー・エス・ビー機械株式会社　５６７，０００円

2022年度運営会員ご入会者

■長野県　小林彰　宮嶋正範　堤修三・弥子　塚田弘人　山岸昌子
佐藤政弘　佐藤琢磨　町田結花　坂口哲雄　坂口真由美　西牧祐紀
辰野宗味　小西葉子　月内けさみ　堀内幸広　西由美子　佐々木由佳
小堀成子　金沢美智子　土屋三代子　松川美由樹　清水俊治　三井まゆみ
牧田万佐子　佐竹明　小平紗衣　木藤福美　横山正子　永井久美子
高村京子　小林治蔵　清水栄紀　樋沢早帆美　高寺稔　齋藤めぐみ
山崎喜代　三井千愛　飯島理佳　遠藤良和　志賀洋子　若林智子　坪田理
川又亮太　中村史織　矢代千果　米倉希　倉島佑介　下城晃　工藤淳
古平卓郎　佐田芽衣　豊永多鶴子　矢島美由貴　関口誠一郎　伴野慶
翠川清子　塩崎都衣　石井大輔　荻原恒平　脇田加奈恵　佐藤ひとみ
堀内みな美　青木妙子　齊藤絢美　合原真矢　石巻愛莉　的場真
和久井翔太　滝沢めぐみ　高木かおり　萩紘樹　小市弥生　阿部達也
太田恵里奈　奈良司　小松有加里　坂口かりん　西沢泉　堀内文康
垂見美雪　菊地剛　清水真紀子　田矢佳央里　本多将之　関谷美咲
菊池恒男　大川恵美子　長谷川亜由美　小林あか里　加藤美奈　高橋輝男
堀内敬祐　丸山貞子　北沢栞　東城治美　長竜平　堀内瑛人　東山史江
半田正直　林真奈未　新井瑞生　唐沢智衣　松井良伸　本多未郷　相馬律子
川岸由佳　高岡恵美子　望月祐子　関谷浩行　小田切玄和　片山智憲
市村友一　小林優太　唐沢郁哉　佐々木崇　高寺裕也　内堀裕也　田矢雄介
安田剛　森島優典　林明徳　出浦友里　竹内絵里子　中島花菜子　牧内麻美
海沼遼太郎　三浦佑子　小林千春　渡辺早紀　北沢成美　**■東京都**　西脇正雄
■埼玉県　庄子幸子　**■神奈川県**　栗原弘子　**■石川県**　宮元直樹

2022年度運営会費納入金額

（2022年4月1日～2022年 12月31日）

	会員数（名）	会費（円）
長野県	255	918,374
北海道	2	8,000
東北地方	2	11,000
関東地方	27	292,000
中部地方	5	42,000
北陸地方	2	8,000
近畿地方	3	21,000
中国地方	1	3,000
四国地方	0	0
九州地方	0	0
合計	297	1,303,374

スタッフリレー通信 6

題字／金井 守 さん

●ミライエ　和久井 翔太

2012年度にかりがね福祉会に入職して、11年目になります。入職してから多くのご利用者様、スタッフとの出会いから、色々なことを学ばせていただきました。入職後は、ライフステージかりがねに1年勤務後、在宅支援センターえ～る　重度障がい者等包括支援（現・さなだの杜）と、在宅支援で働かせていただき、現在は、放課後等デイサービス　ミライエで、元気いっぱいのお子様たちの支援をさせていただいております。

私は、子ども達に関わる仕事がしたいという気持ちから、専門学校では保育士を目指し日々勉学に励んでいました。その中で、専門学校1年生の時に履修した施設実習で、かりがね福祉会で実習をさせていただいたのが、私とかりがね福祉会の初めての出会いでした。障がいを持った方々と関わる体験が今までなかったので、不安を感じながら実習へ行ったことを思い出しますが、一人ひとりのご利用者様、そしてスタッフの方々が暖かく出迎えてくださり、何より、笑顔で溢れている施設だなと感じました。その後、再度の実習や、ボランティア、アルバイトも経験させていただき、率直に「ここで働きたい！」と感じ入職をいたしました。

今では、学生時代に学ばせていただいた保育を活かせる事業所に勤務し、子どもたちの笑顔を元気の源に、毎日楽しく充実した日々を過ごしております。私も、ご利用者様、ご家族、たくさんの人に笑顔を提供できるようなスタッフになることを目標に、頑張っていきたいと思います。

同僚の声

昨年から体制が変わった中で、和久井さんには親身になって相談に乗っていただくこともあり、とても感謝しております。子どもたちと過ごしていると、時々「和久井さんが良かった。」という言葉が聞かれるのですが、これは和久井さんの優しさや人柄を表している言葉だなぁ、と日々感じております。私も子どもたちに親われる支援者を目指して、和久井さんを参考にさせていただきながら頑張りたいと思います。（萩　紘樹）

●さなだの杜　田矢 雄介

かりがね福祉会へ入職し、さなだの杜（重度障がい者等包括支援・共同生活援助）に勤務して6年目になります。障がい者支援を知ることになったきっかけは、保育士を目指して専門学校へ通っていた際、長野市の障がい者施設で受けた実習でした。初めての経験で戸惑うばかりでしたが、2週間の実習を終えて振り返ってみると、「楽しかった」と思えました。就職するなら障がい者支援が良いと思い、志すようになりました。かりがね福祉会は自分の出身校である、カレッジオブキャリア教養科の先輩方が毎年就職し、活躍されていたので、かりがね福祉会で私も貢献してみたいと思い、入職しました。

入職当時はご利用者様の名前を覚えたり、業務を覚えるのに必死で、1年目は一瞬のように感じたのを今でも覚えています。支援に困った時は先輩スタッフや上司にたくさんのアドバイスをいただき、助けてもらいました。さなだの杜では言葉でのコミュニケーションを取ることができるご利用者様が少なく、何に困っているのか、何を伝えたいのか等を、しっかりと伝えることが難しい方々がいらっしゃいます。しかし前後のできごとや、その時の表情、最近の傾向やご本人の特性から推測を立て、声掛けをしたり、支援をさせていただきます。大変なこともある仕事ですが、その分やりがいも多く感じています。

今後の目標は、ご利用者様が安心・安全に生活できるような環境作りを行いながら、一緒に働くスタッフが気持ちよく業務を行えるように、スタッフケア等も行っていけたらと思っています。

同僚の声

いつも視野を広く持って全体を気にかけてくれている田矢さん。出身校の同じ後輩と一緒にお仕事させていただけて、とてもうれしく感じています！日々変わるご利用者様の変化を見逃さず、ご利用者様が「楽しい！」「嬉しい！」「心地よい！」と思えるような支援、環境を一緒に見つけていきましょう！大変なことも多いですが、一人で背負わず、周りのスタッフと協力して解決していきましょう。（髙寺裕也）

題字／宮下宜績 さん

かりがね福祉論 4

ライフステージかりがね管理者 三井 千愛

30年を振り返って

昨年 2022 年 8 月に永年勤続表彰式が行われました。今回、私も勤続 30 年ということで表彰していただき、改めて年月の経過を感じ、振り返りと感謝の機会となりました。また、4 月よりライフステージかりがねに異動となり（10 年ぶりでしょうか・・・）、原点に戻ってきたなぁと感じています。その中で、入職当時の想い、今も大切にしていること等、いくつかお伝えできればと思います。

＜入職当時の想い＞

私がかりがね福祉会に入職したきっかけは実習です。当時の理念“家庭化”“社会化”“民主化”に基づいた支援や実践に驚きました。スタッフとご利用者様との関係が同等（当たり前のことなのですが）、地域の中での少人数の暮らし、地域の方々との交流、会員制度など、どれもとても興味深く、もっと関わってみたいと感じました。ご利用者様と**“一緒に”**楽しむ、働く、暮らすという実践。当時のスタッフの方々の想いや取り組みに引き付けられました。**“一緒に”**という想いは今も自分の中で大切にしたい部分です。悩む、悲しむ、苦しむという負の感情も含めて一緒に関わっていけるのがベストだと思っています。（自分自身、まだまだの部分であります）一緒に過ごすことで信頼関係が生まれ、ご利用者様の本当の想いや姿に気付けるのだと思います。当時はご利用者様に生活の一部を担っていただく場面も多くあり、自然に感謝を伝え合う機会となり、一緒に過ごす中での何気ない会話や関わり、その中で新たな一面を知ることも多かったように感じます。

＜産休育休を経て～今＞

年月を経てご利用者様の状況、制度、体制など大きく変化しています。当時と同じ事はできませんが、“一緒に”の想いは関わる姿勢として大切にしたい部分です。また、それを今のスタッフの皆さんにも知っていただきたいし、大切にしてほしいと思います。自分が子育てをして、ご利用者様やそのご家族の想いを想像し、より一緒に過ごすことの意義も感じています。

上記のような想いをもって務めさせていただきましたが、実際の支援では知識や経験不足による失敗、支援や関わりでの行き詰まりも多々ありました。その都度、先輩方に助言や励ましをいただき、今に繋がっていると感じます。良き先輩スタッフに囲まれ、目標となるスタッフ像にもなっています。今のスタッフの皆さんにも目標となるスタッフがいてほしいと願います。退職された先輩方も多いですが、自分の目標のスタッフ像として変わらずに存在しています。

＜これから＞

数年前に理念が見直され“地域の全人生に幸せを”となりました。以前からの理念（家庭化・社会化・民主化）を含めての新しい理念だと思っています。かりがね福祉会に関わる全ての方が幸せを感じられるような、幸せにつながるような言動をとりましょう、ということだと理解しています。

管理者という立場を任せられるようになり、自分が支えてもらったようにスタッフの皆さんのフォローができているか反省の日々です。スタッフの皆さんが笑顔で仕事ができる＝ご利用者様のより良い支援（笑顔）に繋がると考え、そのために必要なこと、何ができるのか考えて行動していきたいと思っています。

［季刊］かりがね
二〇二三年三月　昭和五十四年九月二十六日第三種郵便認可
発行　社会福祉法人かりがね福祉会
編集　機関誌編集委員会
制作・印刷　㈱アオヤギ印刷
【定価】100円

お！わ！いい！

karigane collection

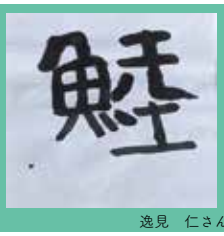
風の工房　アトリエ Fuu

宮下宜績さん　「志村けんのバカ殿」

坂口　哲さん　/　大塚　よしみさん

中村　豪さん

山内　結香さん



逸見　仁さん

坂口　哲さん

尾崎　仁一さん

北川　博誉さん

編集後記

この度、機関誌400号を記念し特別号の発行となりました。かりがね福祉会の歴史における大きな場面に立ち会い、感慨深いものがあります。この2年間「誌面改革」をテーマに、いくつかの新たな企画、記事内容の編集に取り組みました。地域の方々への取材や、管理職・スタッフの方々への原稿依頼、連絡調整をする中で、私自身も福祉職として、大切なことをたくさん学ばせていただきました。堀内幸広副委員長、編集委員の方々のチームワークに深く感謝いたします。アオヤギ印刷様にはレイアウト、印刷において多大なご協力をいただきました。機関誌を読んでいただいた方々から、様々な感想、反響をいただきました。これからも機関誌とともに、かりがね福祉会の新たな歴史が築かれていくことを信じています。　（機関誌編集委員長・伴野慶）

社会福祉法人 かりがね福祉会　URL https://karigane.or.jp

■法人本部／ライフステージかりがね				
	〒386-2201	長野県上田市真田町長6430-1	TEL.0268-72-3431	FAX.0268-72-4406
■つつじ	〒386-2201	長野県上田市真田町長7166-8	TEL.0268-75-5431	FAX.0268-75-5434
■在宅支援センターえ～る／さなだの杜				
	〒386-2201	長野県上田市真田町長6430-1	TEL/FAX.0268-72-8022	
■共同生活サポートセンター	〒386-2202	長野県上田市真田町本原531-1（よつばのいえ内）	TEL/FAX.0268-72-2434	
■風の工房	〒386-2201	長野県上田市真田町長2464-1	TEL/FAX.0268-72-2151	
■OIDEYO ハウス	〒386-2203	長野県上田市真田町傍陽8551-2	TEL/FAX.0268-73-0005	
■OIDEYO ハウス（分場）	〒386-2202	長野県上田市真田町本原1491	TEL/FAX.0268-72-5067	
■アトリエ Fuu	〒386-2202	長野県上田市真田町本原531-2	TEL/FAX.0268-72-1061	
■ミライエ	〒386-2201	長野県上田市真田町長7166-8	TEL/FAX.0268-71-7810	

会員・読者の皆様からのご意見・ご感想お待ちしています。「機関誌編集委員会」までお寄せ下さい。